

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34310
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22401013
 研究課題名（和文） グローバル化と東南アジアのプランテーション—アブラヤシが変える経済・自然・共同体
 研究課題名（英文） Globalization and Plantation in Southeast Asia: Oil Palm Transforming Economies, Natures and Communities
 研究代表者
 林田 秀樹（HAYASHIDA HIDEKI）
 同志社大学・人文科学研究所・准教授
 研究者番号：70268118

研究成果の概要（和文）：本研究は、東南アジアの経済や自然、地域社会に様々な影響を及ぼしているアブラヤシ・プランテーションの急拡大について総合的に研究することを目的に、研究会の定期開催と海外現地調査を中心に研究活動を展開してきた。そのなかで、マレーシア、インドネシアの企業によるパーム油輸出とグローバル展開、インドネシア及びタイの小農による農園拡大の動態等について、書籍、論文、並びに学会報告などのかたちで成果を公表してきた。

研究成果の概要（英文）：Our project has developed research activities aiming at comprehensive approach to the drastic expansion of oil palm plantations in southeast Asia, which have been variously affecting economies, natures and local communities there. By doing so, we have published research products in forms of books, papers and presentations at some academic societies on the themes regarding to palm oil export and globalization of companies of Malaysia and Indonesia, and the dynamism of plantation-expansion by smallholders of Indonesia and Thailand.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2011 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2012 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
年度			
総計	12,300,000	3,690,000	15,990,000

研究分野：開発経済学

科研費の分科・細目：人文学 D・地域研究

キーワード：アブラヤシ、プランテーション、パーム油、東南アジア、熱帯林保全、農園企業、グローバル化

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者、並びに各分担者は、2009 年春より「アブラヤシ研究会」という任意の研究会を組織して共同研究を始めつつあった。これには、1990 年代末より、マレーシア、インドネシアで顕著になっていたアブラヤシ・プランテーションの急速な拡大傾向に対して、森林破壊と現地住民の生活の

阻害を招いているという批判がなされることが多く、東南アジアの地域研究を専門とする研究者たちが、当該問題に強い関心を持ち始めていたという背景があった。問題が認識され、それに関心をもつ者も増えてきているのに、当該問題に対する本格的な研究は、H24 年度に本研究の分担者となった岩佐和幸の『マレーシアにおける農業開発とアグリビ

ジネス—輸出指向型開発の光と影』（法律文化社、2005年）以外にほとんどみられない状況であった。そうしたなかで、当該問題の否定的側面だけでなく、現地経済への貢献など肯定的側面にも光を当て、どちらかの評価に偏らない「総合的な研究」を指向して共同研究を推進していこうという点で、メンバーの意見が一致し、科学研究費の申請に至ったのである。

2. 研究の目的

東南アジア諸国におけるアブラヤシ・プランテーションの拡大の動態の解明とそれへの対策立案が各方面から求められていることに鑑み、マレーシア、インドネシア、並びにタイ等東南アジア諸国でのフィールド調査及び文献調査に基づき、以下の諸事項の究明を多角的かつ学際的に遂行することが、本研究の目的であった。

- (1) 農園拡大のグローバルな背景：中印等でのパーム油関連製品への需要増の経緯と将来見通し
- (2) 開発を促進するディスコース：「地球に優しいアブラヤシとパーム油」というディスコースの構築過程とそれによって影響される当該国内の世論、並びに国際世論の動向
- (3) 農園の拡大過程：物理的な拡大過程、並びに拡大を可能とした行政機構、及び内外資本の動き
- (4) 農園の運営状況：農民・労働者のリクルート（マレーシアへのインドネシア人労働者の不法流入を含む）と彼らの労働・生活実態、土地生産性やパーム油工場の稼働状況等
- (5) 地域社会の変容：当該地域社会の共同体性の喪失や地域住民の生活環境の変化
- (6) 農園開発に伴う熱帯林の消失：生態系の喪失や地球温暖化への影響

これらの課題を遂行することで、農園拡大の動因と各方面への影響、並びに必要な政策対応について社会・人文・自然科学の各領域から総合的に検討し、研究成果をメンバー並びに必要な執筆者を迎えての共同著作にまとめ上げることが、本研究の最終的な目標であり、この目標は現時点でも引続き私たちが追求している。

3. 研究の方法

本研究の研究方法は、メンバー各自がそれぞれ調査経験を有するか、もしくは新たに關心を抱いた特定の国・地域で、農園関係者や小農、中央・地方政府の関係諸機関、もしくはNGO関係者等に直接聞き取りを行い、資料を収集するというフィールド調査、及び収集した資料を査読・解析する文献調査を基本としている。

加えて、上記のアブラヤシ研究会を、長期休暇期間中を除いて毎月定期的に開催することで各自の調査結果を報告し合い、情報を共有して活発に議論を行うというスタイルを貫いてきた。本研究の研究機関である2010-12年度の3年間における開催回数は、25回にも及ぶ。そのような研究会の積重ねにより、互いの調査・研究の進行状況とその具体的内容、それぞれの研究成果を組み合わせる場合にどのような全体的構成をとることが最適であるかについての認識を共有することができた。

また、アブラヤシ研究会には、本研究のメンバー以外の報告者をも積極的に招聘し、アブラヤシ・プランテーションに関連する研究報告を行ってもらってきた。そうすることで、メンバー各自が内向きに閉鎖的な考え方もつことなく、当該問題を客観的にとらえ、その問題に対する多様なアプローチを常に意識して調査研究を推進することができた。さらに、それらメンバー外のゲスト講師のなかから、研究会の新規メンバーを迎え入れてきたし、岩佐のようにアブラヤシ研究会だけでなく、科研費プロジェクトの本研究にもメンバーとして加わった者もある。

4. 研究成果

本研究のメンバー各自の研究成果は、次項の「5. 主な発表論文等」にまとめたとおりであるが、特に最終年度であるH24年度は、前年度以来計画してきたグループとしての研究成果公表を4次にわたって行うことができた。それら4回の成果公表は、本項末尾にまとめたとおりである。これらの成果は、前述のように共著本のかたちで研究成果をとりまとめることを最終目標としながらも、それ以前に関連学会でパネル報告を組織するなど、グループとしての成果報告を重ねていこうという合意を形成し、実行してきた結果である。

以下では、そうした学会、国際シンポジウム、国際セミナー等での報告として結実した研究成果のなかから、重要であると思われる知見を4点ほどにまとめ、以下にその概要を示す。

〔成果としての知見〕

第1に、アブラヤシ農園面積、並びにパーム油生産量に突出しているマレーシア、インドネシアは、インド、中国、あるいはEUといった巨大市場をはじめ、世界中の極めて広範な地域にパーム油輸出を盛んに行い、市場を拡大させてきたという点である。その輸出の拡大は、1990年代末にそれらパーム油の2大生産国において通貨危機が発生して以降特に加速しており、アブラヤシ・プランテーション面積もそれにつれて拡大してきている。問題は、マレーシア、インドネシアとい

う東南アジア特定国・地域において局所的に生じているようにみえながら、その根本的な動因を探ればすぐれてグローバルな現象であるといえる。

2点目の知見は、それら2大生産国の農園企業の海外事業展開に関するものである。マレーシア資本、インドネシア資本とも中南米やサブサハラ・アフリカにおける農園開発に進出しているが、それ以外にも、例えばマレーシア系企業は、アメリカのアグリビジネス企業と提携関係を結ぶなど事業の多角化と海外の競合資本との相互浸透を進め、収益力基盤の強化を図っている。

第3は、アブラヤシ・プランテーション、パーム油関連製品に関するディスコースの展開に関連する事柄である。農園開発の是非に関するディスコースは、その反対派側からは、「持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO)」の認証を得たものしか関連企業は購入すべきでないとの議論が依然として根強く、特に後発国インドネシア側の反発を招き、同国による独自認証制度への動きも生じている。こうした事態は、国外でのアブラヤシ農園拡大の動きにも少なからず影響を与えるものと思われる。

第4の知見は、とりわけインドネシアにおいては、小農による自営のアブラヤシ農園造成が盛んに行われるようになってきており、その動向が注目されるようになってきているという点である。従来は、大規模農園企業によるアブラヤシ・プランテーションの造成が森林破壊を促進しているとして、環境保護団体、NGOからの批判の対象となってきたのであるが、とりわけ2000年以降は小農による農園開発が無視できない規模になってきており、環境問題ばかりでなく、アブラヤシ・モノカルチャー化がそのリスクを主に背負う小農たち自身の手によって進められているのであり、この要因をどのように理解するか、その影響はどのようなかたちで現れてきているかについて、調査・研究を継続する必要がある。

[グループとしての成果公表]

(1) 東南アジア学会第87回研究大会 (2012年6月3日、於 京都文教大学)

[パネル・テーマ] 東南アジアにおけるアブラヤシ栽培の拡大と地域社会の変容、

[報告者] 藤田、生方、増田

(2) アジア政経学会 2012年度全国大会 (2012年10月13日、於 関西大学)

[分科会テーマ] 東南アジアにおけるアブラヤシ・プランテーション拡大の政治経済学—要因、構造、言説、

[報告者] 林田、岩佐、岡本

(3) 同志社大学人文科学研究会主催 第80回公開講演会/国際シンポジウム (2013年2月23日、於 同志社大学)

[シンポ・テーマ] カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響—生産システム・地域社会・熱帯林保護、

[講演者] 林田、加藤、他1名

(4) インドネシア科学院・京都大学東南アジア研究所・日本学術振興会アジア研究教育拠点事業共催国際セミナー ‘Socio Political and Economic Reform In Southeast Asia: Assessments and the Way Forward’, SESSION 4: Plantation and Biomass Society (2013年3月10日、於 インドネシア科学院(ジャカルタ))、

[報告者] 林田、藤田、岩佐、他4名。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

① 林田秀樹 「パーム油生産の急増とその需要側要因について—1990年代末以降に焦点を当てて—」『社会科学』(査読有) 41(4)、pp. 89-107、2012年。

② 生方史数、他2名 「市場作物の浸透が樹園地作物の多様性と蓄積に与えた影響—インドネシア、ランブン州の事例」『森林応用研究』(査読有) 21(2)、2012年。

③ Ubukata, Fumikazu, 'Exploring Villagers-Resources Network: Differences in the Pattern of Natural Resource Use in Yasothon, Thailand', *Journal of Forest Management* (査読有), 6(11), pp.188-200, 2012.

④ 生方史数 「サラワク調査とアブラヤシ研究」『熱帯バイオマス社会』(査読無) 8、pp. 1-4、2012年。

⑤ Ubukata, Fumikazu, 'Sarawak Studies and Oil Palm Survey, *Equatorial Biomass Society* (査読無), 4, pp.1-4, 2012.

⑥ 林田秀樹 「インドネシア銀行の一次協同組合向け与信政策の変遷—農園事業振興策との関連で—」『社会科学』(査読有) 40(4)、pp. 105-133、2011年。

⑦ 藤田渡 「ローカル・コモンズにおける地域住民の「主体性」の所在—実践コミュニティの生成と権力関係について—」『文化人類学』(査読有) 76(2)、pp. 125-145、2011年。

⑧ 田中耕司 「油をつくる植物—植物油の多様性と利用の増大」『BIOSTORY』(査読有) 14、30-35、2010年。

⑨ 生方史数 「制度の理念的設計・自生的進化とその整合化：タイの共有林管理の事例から」『社会と倫理』(査読有) 24、pp. 31-47、2010年。

⑩ 室田武 「デカン高原のある農村から考えたバイオ燃料ブーム」『経済学論叢』(査読無) 63(2)、pp. 259-273、2011年。

〔学会発表〕(計 20 件)

- ① Hayashida, Hideki, 'Causes of the Expansion of Palm Oil Exports from Malaysia and Indonesia: Focusing on the Changes of Their Destinations and Refinement Forms', presented at *International Seminar: Socio Political and Economic Reform in Southeast Asia: Assessments and the Way Forward*, Coorganized by: LIPI-CSEAS Kyoto University-JSPS Asian Core Program, held at Indonesian Institute of Science (Jakarta, Indonesia), 10th Mar. 2013.
- ② Fujita, Wataru, 'Pension Agriculture: Oil Palms and Peasants' Livelihood in Southern Thailand', presented at *International Seminar: Socio Political and Economic Reform in Southeast Asia: Assessments and the Way Forward*, Coorganized by: LIPI-CSEAS Kyoto University-JSPS Asian Core Program, held at Indonesian Institute of Science (Jakarta, Indonesia), 10th Mar. 2013.
- ③ Iwasa, Kazuyuki, 'Globalization of Agribusiness and Structural Change of the Malaysian Palm Oil Industry', presented at *International Seminar: Socio Political and Economic Reform in Southeast Asia: Assessments and the Way Forward*, Coorganized by: LIPI-CSEAS Kyoto University-JSPS Asian Core Program, held at Indonesian Institute of Science (Jakarta, Indonesia), 10th Mar. 2013.
- ④ 林田秀樹「アブラヤシ生産システムの変容が意味するもの：西カリマンタン州の事例から」同志社大学人文科学研究所第 80 回公開講演会／国際シンポジウム「カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響—生産システム・地域社会・熱帯林保護」(招待講演)、於同志社大学今出川キャンパス、2013 年 2 月 23 日。
- ⑤ 加藤剛「商業作物中心の経済は何をもたらしたか—西カリマンタンの地域社会を考える」同志社大学人文科学研究所第 80 回公開講演会／国際シンポジウム「カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響—生産システム・地域社会・熱帯林保護」(招待講演)、於同志社大学今出川キャンパス、2013 年 2 月 23 日。
- ⑥ 林田秀樹「マレーシア、インドネシアからのパーム油輸出について：仕向地、精製形態の変化にみる需要増の要因」アジア政経学会 2012 年度全国研究大会、於 関西学院大学、2012 年 10 月 13 日。
- ⑦ 岩佐和幸「アグリビジネスのグローバル化とパーム油産業の構造変化」アジア政経学会 2012 年度全国研究大会、於 関西学院大学、2012 年 10 月 13 日。
- ⑧ 岡本正明「アブラヤシ農園拡大をめぐる 2 つの正義とその相剋」アジア政経学会 2012 年度全国研究大会、於 関西学院大学、2012 年 10 月 13 日。
- ⑨ 藤田渡「『年金農業』化するタイのアブラヤシ生産」東南アジア学会第 87 回研究大会、於 京都文教大学、2012 年 6 月 3 日。
- ⑩ 生方史数「オイルパームとバルブの産業生態学—東南アジアでの比較から」東南アジア学会第 87 回研究大会、於 京都文教大学、2012 年 6 月 3 日。
- ⑪ 増田和也「小農社会におけるアブラヤシ栽培の受容と拡大の動態：インドネシアの事例から」東南アジア学会第 87 回研究大会、於 京都文教大学、2012 年 6 月 3 日。
- ⑫ Ubukata, Fumikazu, 'The Natural Resource Use and Management in the Transition to Depopulation and Aging Society: A Case Study in a Village of Northeast Thailand', presented at International Scientific Conference on "Sustainable Land Use and Rural Development in Mountain Areas, held at Hohenheim University (Stuttgart, Germany), 16-18th Apr. 2012.
- ⑬ Okamoto, Masaaki, 'Forest or Not? Contentious Discourse on Expansive Oil Palm Plantation in Southeast Asia', presented at Harvard Yenching Seminar and HKS Indonesia Program Brown Bag Seminar, held at Harvard Yenching Institute, USA, 30th Mar. 2012.
- ⑭ 生方史数「プランテーション開発からみた熱帯アジア社会—環境・社会との共存への見通し」第 22 回国際開発学会全国大会、於 名古屋大学、2011 年 11 月 26-27 日。
- ⑮ Hayashida, Hideki, 'Bentuk, Penyebab dan Permasalahan Perluasan Kebun Sawit, serta Kebijakan Pemecahan Permasalahan Tersebut: Kasus Kebun Parindu PTPNXIII(Persero) (インドネシア語、邦題「アブラヤシ農園拡大の形態、要因、並びにそれが引き起こす諸問題とその解決：第 13 国営農園会社パリンドゥ農園の事例」) presented at International Seminar: Oil Palm Industry and Its Social Economic Effects in West Kalimantan Province, held at Tanjungpura University, Republic of Indonesia, 20th Sep. 2011.
- ⑯ 増田和也「森林をめぐる領有性の生成と重層的展開についての研究—スマトラ、プタランガン社会における森林開発—」日本文化人類学会・2011 年度第 1 回近畿地区研究懇談会・博士論文発表会、於 立命館大学衣笠キャンパス、2011 年 7 月 24 日。
- ⑰ Hayashida, Hideki, 'Which Side Actors are More Responsible, Local or Global? —

Fundamental Causes of Expansion of Oil Palm Plantations in Indonesia', presented at *JSPS Asian Core-Program Seminar: Local Politics and Social Cleavages in Transforming Asia*, Co-organized by JSPS, CSEAS and CAPAS, held at CSEAS Kyoto University, 18th Dec. 2010.

- ⑱ Fujita, Wataru, 'The Social Impact of the Expansion of Oil Palm Plantation in Southern Thailand: A Scope for Global-Local Area Study', presented at *JSPS Asian Core-Program Seminar: Local Politics and Social Cleavages in Transforming Asia*, Co-organized by JSPS, CSEAS and CAPAS, held at CSEAS Kyoto University, 18th Dec. 2010.
- ⑲ 岡本正明「民主化後インドネシアにおける安定化のポリティクス」東南アジア学会関西地区例会、於 京都大学、2010年10月21日。
- ⑳ Okamoto, Masaaki, 'The Political Economy of Oil Palm Plantation: Expansion Policy in The 34th Southeast Asia Seminar on New Concept Building for Sustainable Humanosphere and Society from the Equatorial Zone of Southeast Asia', held at Indonesian Institute of Science, 22nd Sep. 2010.

〔図書〕(計9件)

- ①同志社大学人文科学研究所編『カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響(第80回公開講演会/国際シンポジウム)』(人文研ブックレットNo.45)、156頁、分担執筆：林田秀樹「アブラヤシ生産システムの変容が意味するもの：西カリマンタン州の事例から」pp.2-51、2013年。
- ②同志社大学人文科学研究所編『カリマンタン/ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響(第80回公開講演会/国際シンポジウム)』(人文研ブックレットNo.45)、156頁、分担執筆：加藤剛「商業作物中心の経済は何をもたらしたか—西カリマンタンの地域社会の経験から」pp.52-114、2013年。
- ③室田武他編著『コミュニティ・エネルギー』農山漁村文化協会、286頁、分担執筆：室田武「持続可能なエネルギーとコミュニティ再生」pp.9-44、2013年。
- ④増田和也『インドネシア 森の暮らしと開発—土地をめぐる〈つながり〉と〈せめぎあい〉の社会史』明石書店、436頁、2012年。
- ⑤船津鶴代・永井史男編『東南アジア：変わりゆく地方自治と政治』(分担執筆)ジェトロ・アジア経済研究所、275頁、分担執筆：岡本正明「逆コースを歩むインドネシアの地方自治：中央政府による「ガバメント」強化への試み」pp.27-66、2012年。

- ⑥柳澤雅之他編『地球圏・生命圏の潜在力—熱帯地域社会の生存基盤』京都大学出版会、336頁、分担執筆：田中耕司「樹木を組み込んだ耕地利用—作物の時空間配置から熱帯の未来可能性を考える」pp.173-196、2012年。
- ⑦杉原薫他編『歴史のなかの熱帯生存圏—温帯パラダイムを超えて』京都大学出版会、552頁、分担執筆：田中耕司「生存基盤持続型発展径路を求めて：「アジア稲作圏」の経験から」pp.185-213、2012年。
- ⑧杉原薫他編著『地球圏・生命圏・人間圏 持続的な生存基盤を求めて』京都大学学術出版会、427頁、分担執筆：田中耕司「東アジアモンスーン地域の生存基盤としての持続的農業」pp.61-88、2010年。
- ⑨水島司編著『環境と歴史学—歴史研究の新天地』勉誠出版、240頁、分担執筆：田中耕司「東南アジアにおける森林管理をめぐる環境史」pp.190-199、2010年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林田 秀樹 (HAYASIDA HIDEKI)
同志社大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：70268118

(2) 研究分担者

室田 武 (MUROTA TAKESHI)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：40104749

加藤剛 (KATO TSUYOSHI)
総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・客員教授
研究者番号：60127066

田中 耕司 (TANAKA KOJI)
京都大学・地域研究統合情報センター・名誉教授
研究者番号：10026619

岡本正明 (OKAMOTO MASAOKI)
京都大学・東南アジア研究所・准教授
研究者番号：90372549

藤田 渡 (FUJITA WATARU)
甲南女子大学・文学部・准教授
研究者番号：10411844

生方 史数 (UBUKATA FUMIKAZU)
岡山大学・大学院環境生命科学研究科・准教授
研究者番号：30447990

北村 由美 (KITAMURA YUMI)
京都大学・附属図書館研究開発室・准教授
研究者番号：70335214

増田 和也 (MASUDA KAZUYA)
京都大学・生存基盤科学研究ユニット・研究員
研究者番号：90573733
(H24：連携研究者)

岩佐和幸 (IWASA KAZUYUKI)
高知大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：40314976
(H24年度のみ)